



コラム 1

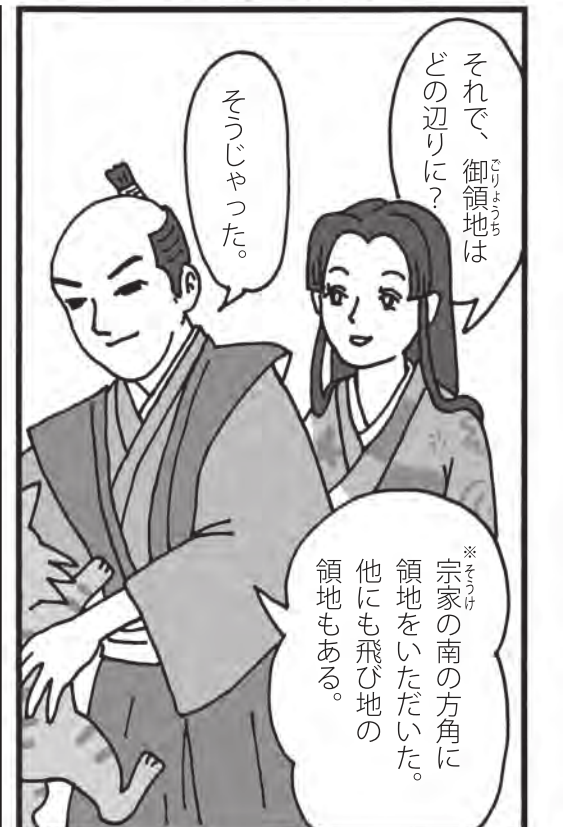
飛地の多い 久居藩

高通公は初代藩主として5万石の領地を与えられましたが、のちにその弟、2代藩主高堅公の折に、3千石が加わり、久居藩の領地は5万3千石となりました。

領地には飛地も多く、現在の三重県内では津市のほかに四日市市、亀山市、鈴鹿市に及び、県外では京都府、奈良県にも合わせて1万石の領地がありました。

〈久居藩領分布図（三重県内）〉

■ 久居藩領





殿が
藩主様に
。

ではお城も？

：せっかく
藩主になられ
ましたのに

とにかく
我ら藤堂家は、
かねてより願ひ出て
いたとおりに無事に
分家が認められて
ほつとおる
ところじゃ。

世継ぎが
ないと、
普通は
取り潰しで
お家断絶。

そうならぬように、
父上がわしを分家
することに決めたのだ。
万一家に世継ぎの
ないときは、
わしの家から養子
を出せばよいと。

そつやつて藤堂家を
繋いでゆける。
お家断絶を逃れる知恵じゃ。

すでに宗家に
城があるから
わしは
あのような城は
持てん。

幕府は我ら大名に
力を持たせないために
一国に城は一つと
決めているんじゃ。

どこの藩も
同じ事じゃが、
分家をするには
幕府の許可が要る。
そのお許しを
いただくのが
なかなか
難儀でのう。
外様大名の
分際ではかなり
難しいんじゃが…。

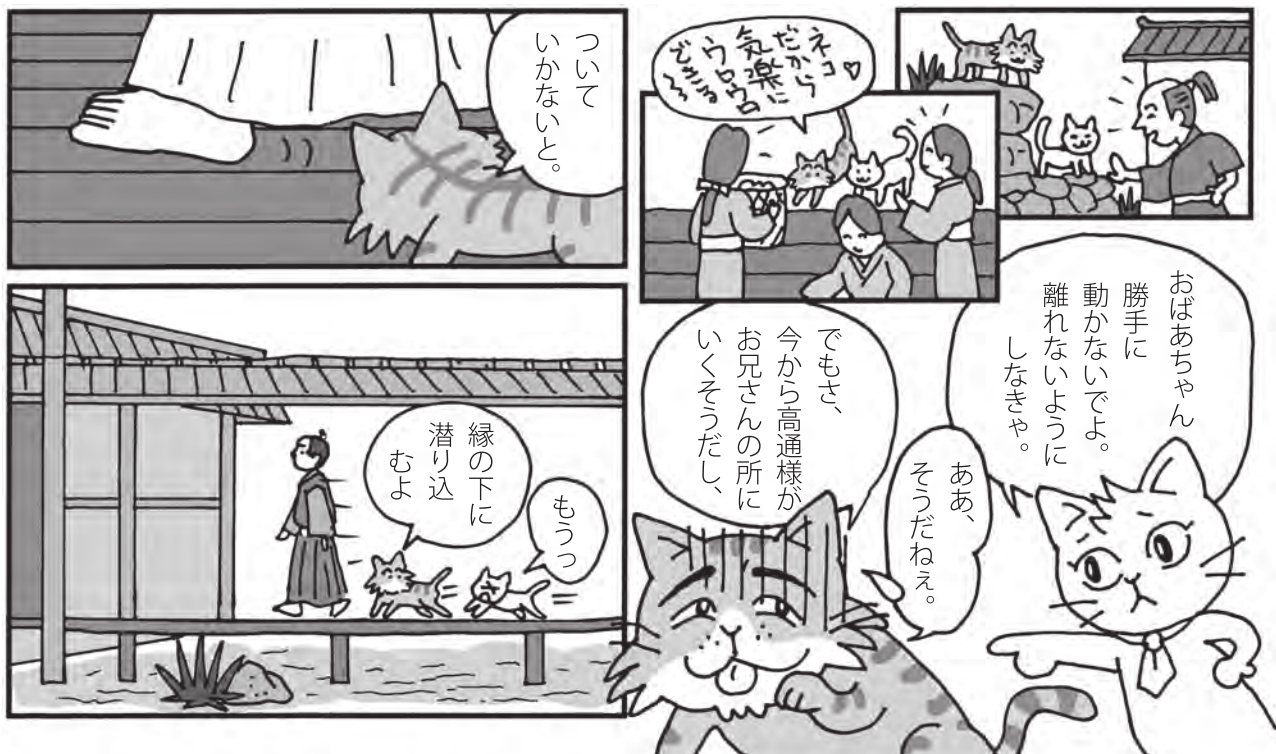
コラム 2 大名の種類

- 親藩……將軍家の親族
- 譜代大名……関ヶ原の戦い以前から
代々徳川家の家来であった大名
- 外様大名……それ以外の大名

老中などの幕府の「要職」につくのは主に譜代大名で、軍事上の
要衝や江戸の周辺に配置されました。一方で、外様大名は
幕政に参加させてもらえず、遠方に領地が与えられました。

※支藩…本家（宗家）から分かれた者が藩主である藩





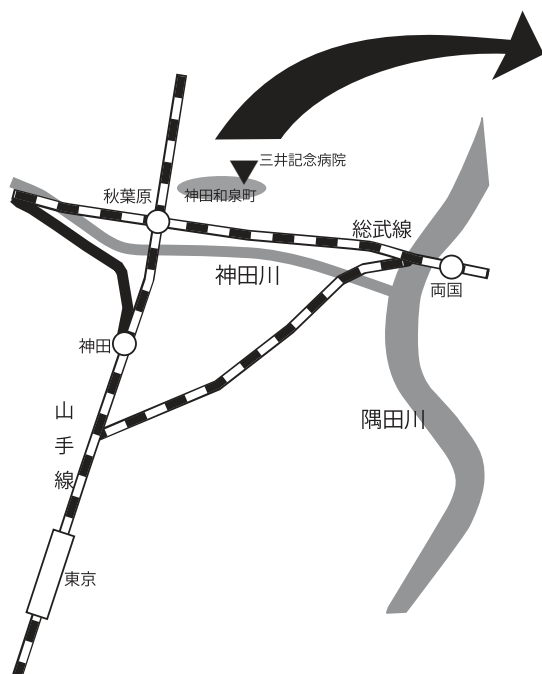
コラム3

津藩と久居藩の江戸屋敷

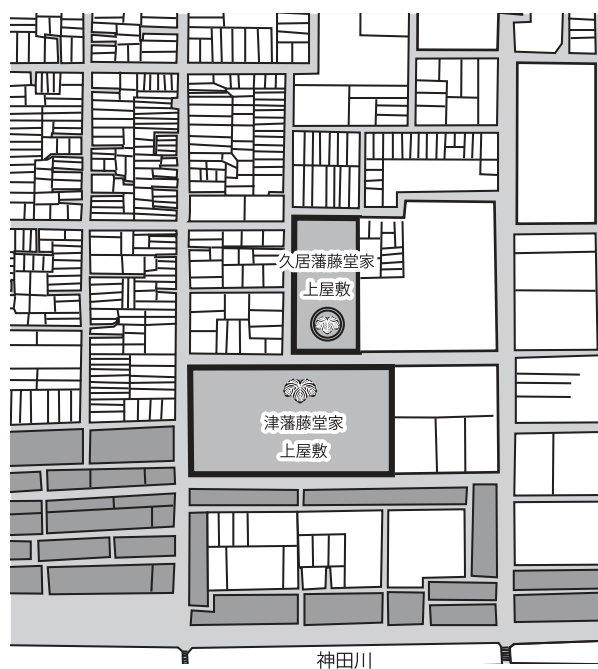
藤堂津藩の藩主が江戸で暮らしていた上屋敷は、現在の千代田区神田和泉町（現・三井記念病院付近）にありました。和泉町という町名は、藤堂津藩主が代々、和泉守を名乗った事に由来しています。

久居藩立藩後は津藩上屋敷の向かい側にあった中屋敷が久居藩の上屋敷となり、高通公をはじめ代々の久居藩主が江戸滞在中に暮らしました。

〈現在の東京〉



〈当時の町並み〉





それにしても、無事に分家が認められて良かった。これも皆、今までの根回しのおかげというもの。

根回しとは？

わしも高久も、幕府の重臣の娘を正妻に迎えておる。そのつても使いつつ、老中たちには日頃ご機嫌伺いもしておったしな。

高虎公の功績により、我らは外様大名ながら譜代大名格扱いだが、しかし、

それでもいつ改易かいえきとなるかも知れぬ。お家を守るため、幕府から目をつけられるような事は避けなければ。

そのようなご苦労が…

幕府の命令で、お家を取り潰しになる事よ。悪い事をしたり、世継ぎがない時そつなるの。

へえええええ！

取り潰されたら、ご領地にいられなくなるから、それはそれは大変な事やに。

なーんか、気弱なお殿様。ねえ、改易つてなに？

そなたは学問はよく出来るが、その呑気のんきな所が心配じゃ。

しかしこれからはそなたも藩主として、しっかりせねばいかん。特に、分家は本家の津藩を支える役割がある。我らは同じ藤堂家として一体である。

何事も本家と相談してから事を進めるように。

頼りがいのありそうなお兄さんやね。

確かに、久居藩は、重要な事は本家に相談してたんよ。こついついきさつがあつたんやねえ。

しかと肝きもに銘めいじます。

そして年が明け

寛文十年（1670年）一月十六日

高通公は家臣の西野小左衛門を
屋敷に呼んだ



殿、猫が。

よいよい、
気にするな。
それより、
いよいよ
築城の件、
幕府の
許可が
下りた。

高通の側近
西野小左衛門

ははっ。

西野、
そちらは
この書状を
持って、
急ぎ国元へ
帰って
もらいたい。

わしの希望を
細かく書いてある。
あとは家老の藤堂源助を
中心に着手せよ。
設計と工事責任者には
軍学に通じた
植木升安
を指名する。

新しく造る町は、
後世に恥じない
安心して住みやすい
町にしたいと思う。
そのところを
皆で十分に
考えて欲しい。

承知いたし
ました。
直ちに国元へ
発ちます。

おばあちゃん、
どうしたん？

あの人に
ついていたら、
久居に行ける
じゃない。
今から久居藩の
城下町造りが
始まるのに、
こんな所で
のんびり待つて
られないよ！

ええ！
ええっ？。

まっ……

では

